

東京都障害者支援施設デジタル通信

令和3年12月28日 Vol.5



～ 支援業務の効率化と施設利用者のQ O L向上に向けて ～



東京都では、令和2年度より「障害者支援施設デジタル技術等活用支援モデル事業」を実施しています。本誌では、少しでも多くの施設に**デジタル機器の有用性**について知っていただき、デジタル技術の導入についてご検討いただけるよう、本事業の取組内容等について紹介させていただきます。

第5回のテーマ

- 1 デジタル機器の紹介 **(移乗支援機器)**
- 2 令和2年度モデル施設の紹介
 - ・施設の**課題と導入機器**
 - ・機器導入による**支援体制の見直し**
 - ・支援現場における**機器定着**に向けた取組
 - ・機器導入に伴う課題と課題解決策
- 3 アドバイザーからの講評



1 デジタル機器の紹介（移乗支援機器）

移乗支援機器は、腰痛等、支援員の身体的負担を軽減するとともに、機器のアシストによる**安定した移乗を実現**し、利用者にも安心して利用いただけるものです。

主な機能

- ・装着型：移乗介助時に機器を装着することで**支援員の力をパワーアシスト**
- ・非装着型：ベッドや車椅子等に専用のシートをセットし、利用者の**移乗を全自動で実施**

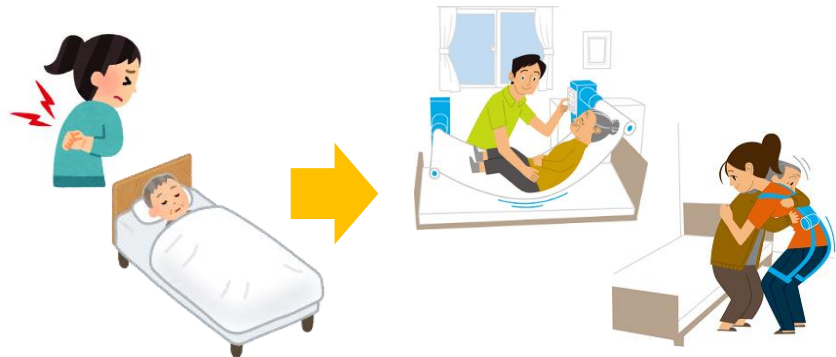
見込まれる導入効果

- ・支援員の**身体的負担（腰痛等）の軽減**
- ・移乗支援方法の統一による利用者の安心
- ・移乗支援時の利用者転落防止

機器活用事例

- ・装着型機器は、支援員の身体的負担を軽減しつつ**迅速な移乗介助**が必要となる場面での活用が有用。
- ・非装着型機器は、**全自動でゆっくり安全に利用者**の移乗介助をしたい場面での活用が有用

移乗サポートで利用者もスタッフも笑顔に！！



機器活用にあたっての留意事項

- ・装着型機器は、移乗支援をする度に**機器を着用する手間**が生じるため、機器を着用している支援員が中心となって移乗支援をするなど、**施設内で事前に活用方法を検討**する必要がある。
- ・非装着型機器は、**移乗支援に時間がかかる**と共に、**機器サイズが大きめ**であるため、機器導入前に**使用場面の設定や機器の保管場所を十分検討**しておく必要がある。

2 令和2年度モデル施設の紹介

施設概要



- ・ 運営法人 社会福祉法人 邦友会
- ・ 施設名称 新宿けやき園
- ・ 所在地 東京都新宿区百人町4丁目5番地の1
- ・ 定 員 施設入所支援 10名
生活介護 20名
短期入所 2名

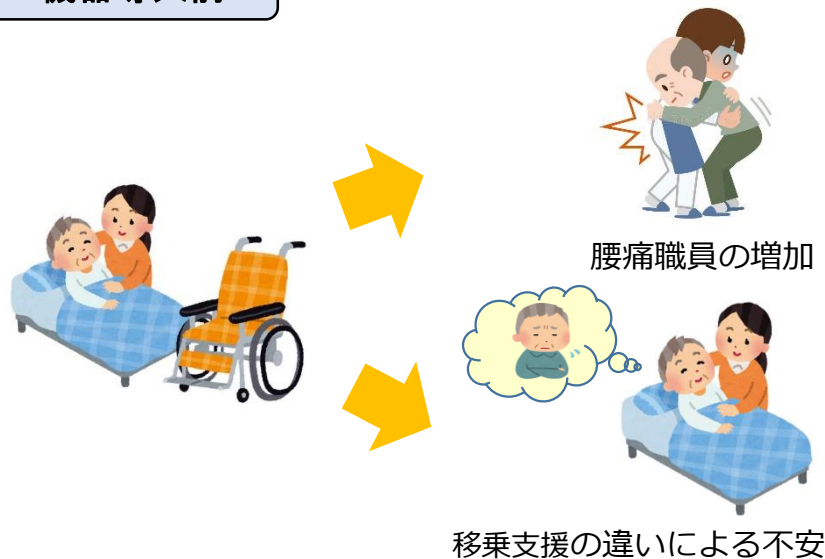


分類	導入機器名称	台数	施設の課題	導入機器に期待する効果
移乗支援機器	移乗介助ロボット SASUKE	1台	・ 主に重度の身体障害者（四肢麻痺、座位保持困難者等）を受け入れており、移乗支援時の支援員の身体的負担が大きく、腰痛が離職の原因にもなっている。 ・ 移乗支援時に大きな力が必要となるため、ベッドから車椅子等へ移乗する際、不安や痛みを感じる利用者がいる。	・ 非装着型であり、全自動で移乗介助をすることが可能であるため、支援員の身体的負担（腰痛）の軽減及び支援業務の効率化が見込める。 ・ 機器が緩やかに利用者を移乗させるため、移乗介助時の利用者の不安や痛みの軽減効果が可能となる。



支援体制（オペレーション）の見直し

機器導入前



・身体負担軽減のため、原則として移乗支援は2名での介助としており、移乗支援における施設負担は大きい。

・支援員によって、移乗支援技術に差があるため、利用者が不安や痛み等を感じることもある。

機器導入後



・移乗支援機器の活用により、事前に専用シートをセットしておくことで、移乗支援に関わる職員を減らす。

・機器が移乗支援をすることで、機器を操作する支援員による移乗支援技術の差を解消する。

支援員の負担軽減

- ・機器使用時は、**移乗支援にかかる支援員の人数を減らすことができる**ため施設としての負担が軽減した。
- ・移乗支援時に、支援員が直接利用者を抱える必要がなくなり、**身体的負担が軽減**した。

利用者支援の向上

- ・移乗支援機器が利用者を優しく丁寧に移乗するため、利用者から**移乗支援時の痛みや不安を訴える声はあがらなくなった**。

主な取組内容

①支援体制の見直し

【移乗介助体制】

・原則 **2名で実施している移乗支援を1名で実施**することとし、支援業務の効率化と支援員の負担軽減を図る

【活用場面の設定】

・朝食前の離床時間など、主として**ベッドからの離床時に移乗支援機器を活用**することを想定

【活用方法】

・移乗支援機器専用のシートを利用者の背面に敷き、ボタン操作をすることで利用者をベッドから車いすなどに移乗

④活用方法の見直し

【機器使用対象者の設定】

・車椅子の形状が専用パッドに合わず、機器を使えない利用者もいたため、**使用対象者を明確化**することで、機器を継続して使用するよう心がけた。

【メーカーへの相談】

・シートの形状が合わない利用者については、メーカーに相談して、**高身長に対応した試作品**を作ってもらい、**利用できる対象者を拡大**した。

【使用目的の再確認】

・機器導入により、移乗支援にかかる時間自体は短縮していないが、「支援員の負担軽減と利用者支援の向上」という**導入目的を常に意識し、機器の継続的活用**に努めた。

②支援現場との調整

【プロジェクトチームの結成】

・介護ロボット導入にあたり、その必要性や導入機器を検討するため、施設長、作業療法士、支援員による介護ロボット機器導入に向けた**P Tを設置**

【マニュアル作成・研修】

・機器導入後、機器の使用マニュアルを作成し施設の職員技術研修委員会において、P Tメンバー以外の支援員に対する**実演・講習を実施**

【導入時の配慮】

・まずは、**機器の使用方法が分かる支援員を中心に使用を開始**し、徐々に支援員間で差がなく機器を使えるよう配慮

③機器導入（活用）

【導入経緯】

・人の手による移乗支援では、移乗時に利用者に無理な力が加わることがあり、利用者が痛みや不安を感じることもあるため、**非装着型の移乗支援機器を導入**

【付属品の購入】

・専用シートは複数枚導入することで、洗濯して乾かしている時も使えるよう**代替品を用意**。

【活用にあたっての工夫】

・移乗にあたっては、利用者が快適に移乗できるよう、**利用者が最も望ましい姿勢**を保持してベッドから車いすへ移乗できるよう、機器を操作

総 評

【移乗支援機器】

右上図「移乗時間の計測結果」のとおり、SASUKE導入により、**移乗支援に8～10分要する**ことになった。機器導入当初は、SASUKEを使うと移乗支援に時間がかかるため、支援員1人で移乗介助を行うこともあった。

そこで、機器を導入した経緯や目的は移乗支援時間の短縮ではなく、「**支援員負担の軽減と利用者の安心感**」であることを施設内で繰り返し共有した。

その結果、現場支援員の意識も徐々に変化し、**移乗支援時間に関わらず、機器を継続的に使用することになった**。

こうした取り組みにより、現場支援員を対象にしたアンケート結果（右下図「**SASUKEの導入で変化が期待されること**」）について、機器導入後も「移乗時に利用者に腰痛が伴わない」や「支援員の腰痛が軽減される」などの回答が93.3%となり、機器導入効果が実証されたものとする。

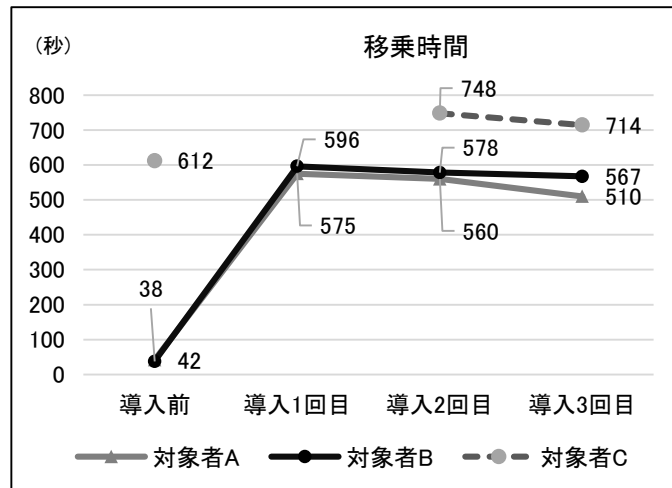
【機器活用における可能性の拡大】

ロボット介護機器は、障害者施設での活用が進んでいないため、メーカーも障害者への使用は手探りの状況にある。

そのため、機器活用にあたってのトラブルなどについては、**メーカーに相談することで、機器開発が促進され、より使い勝手の良い機器が開発**される可能性がある。

したがって、本事例のように、メーカーの協力が得られる場合は、機器導入後もメーカーと密に連携することが、自施設の業務改善の一步となる場合もある。

【移乗時間の計測結果】



【SASUKEの導入で変化が期待されること】

